

あおばだより

2011. 6 No.64

西洋医学と漢方の違い

西洋医学

漢方



身体のどこかに原因
があると考え



身体のバランス
の乱れと考え

漢方薬について

●漢方薬は「病氣」ではなく「病人」を治す

西洋医学は「病氣」を治すが、漢方医学は「病人」を治す・・・漢方医学と西洋医学の特徴の違いはこのようによく言われます。

西洋医学では人間を病氣にする原因として、人体のどこかの部分の異常を考えます。人体を精密な部品の集合体と考え、病氣とは、いずれかの部品の異常が原因であると考えます。したがって、その原因をつきとめ、それを取り除けば病氣は治療できる、という考えです。

一方、漢方では病氣の元を一つの原因とはとらず、身体が持っているバランスが崩れたことに原因があると考えます。漢方では病氣の原因は症状が現れた部分だけにあるのではなく、それ以外の部分にも関連があると考えます。

このように西洋医学では病氣の原因をつきとめ、それを取り除くことを目的としているのに対し、漢方では人体と1つのネットワークと考え、全体のバランスを取り戻すことで病氣を治療することを目指しています。

病氣の治療方針の違い

西洋医学では
病名を重視



漢方医学では
体質や病態を
重視

気・血・水のバランスが大切



●漢方は「証」を見極める

漢方では、患者さんを診断するのに「証」という言葉が用いられます。「証」とは、体力・体質・症状などから患者さんの状態を総合的に評価した診断結果のことです。この「証」によって患者さんに処方する漢方薬を決定するところが漢方医学の特徴です。

証を判断して病氣を治す、これを「弁証論治」と言います。「弁証論治」の考え方では、病氣の名前よりも患者さんの体質や病態を重視します。だから、同じ病氣であっても、〇〇さんと△△さんでは違う薬が処方されることもあります。

「慢性胃炎」「糖尿病」のように病名を診断し、それに対応した治療を行う西洋医学に慣れた我々にとっては奇妙な感じですが、これが「証」を重視する漢方の特徴です。

さて、漢方医学で「証」を決定するもののなかで最も重視されているのが「虚実」と「陰陽」。「虚実」とはその人の体力・体質を表しています。これは病氣に対する抵抗力を表しています。また、虚実だけではなく「中間」という概念も用いられています。患者さんの「証」にぴったり合った漢方薬を選ぶことが漢方で重要なことです。

また、不思議なことに、証にぴったり合った漢方薬は、なぜかおいしく感じられるものです。人間の身体は自分に必要なものを敏感に感じ取る能力が備わっているからだと思われます。



●漢方医学の「気・血・水」

漢方医学には「気・血・水」という概念があり、生命活動の基本となるものです。漢方薬はこのような「気・血・水」のバランスを整えることで病氣や「未病」の状態を改善します。

	定義	機能
気	生きていくための活力源	呼吸・消化吸収・神経系の機能
血	血液を含めた体液の総称	循環器系・ホルモンなどの分泌系の機能
水	水液の総称	リンパ液・免疫系の機能

奈良県大和高田市日の出町11-10

TEL 0745-23-6003

あおば薬局